

P2-071

口腔外傷児童の性格行動パターンとの関連性について疫学的研究

河村 良彦¹、沖殿 ちひろ¹、小口 寛子¹、
佐野 哲文¹、荻原 孝¹、佐野 正之²、渡辺 茂¹

¹明海大学 歯学部 形態機能成育学講座 口腔小児科学分野、

²あすなろ小児歯科医院

【目的】

生活の多様化に伴い小児の歯の外傷の発生頻度は高まってきた。その多くは歯牙の脱臼であり、原因の大部分は患児の転倒、衝突などである。外傷性歯牙脱臼に対して適切な処置を怠った場合、受傷歯の動揺、失活、脱落、またそれに伴う審美障害や歯列不正など様々な障害を引き起こすことが知られている。小児の外傷性歯牙脱臼に関する臨床統計についてはこれまでも数多く報告されているが、大半は、年齢分布や受傷部位分布といった病態にのみ注目された報告が多く、子ども達の生活背景や一人一人の性格に注目した報告はほとんどない。今回、演者らは小児歯科専門医院の1年間の来院患児のうち、外傷性歯牙脱臼の診断を得た患児について、生活背景や性格などに関する調査を行い、臨床的、疫学的検討を行い関連性について若干の知見を得たので報告する。

【方法】

対象は2014年6月より2015年5月までの1年間に富山市にあるA小児歯科医院を受診した小児患児の中で外傷性歯牙脱臼の診断を得た患児のうち、保護者の同意を得られた320名を対象とした。これらの対象者に対して受傷部位、受傷場所、受傷時間などの受傷状況に関する情報と患児の性格、運動能力についての質問用紙を用いたアンケートを実施しその結果をもとに検討を行った。本研究の検討項目は、年齢、受傷場所、受傷原因、受傷時行動内容、受傷部位、運動能力、保護者から見た性格などの17項目に対してのアンケート結果から回答との関連を統計解析ソフトSPSSを用いて χ^2 乗検定にて分析を行った。

【結果・考察】

受傷者の平均年齢5.7歳、受傷した季節は9月と11月の午後に多く発生していた。受傷場所は屋内では自宅、屋外では道路での外傷が多く、ともに休み時間、遊び時間に多かった。原因は転倒と衝突が約8割を占めていた。運動能力は比較的運動が得意と回答した方が有意に外傷を受傷するという結果を示した。また保護者から見た性格は比較的活発であると回答した方が有意な結果を示した。今後、対象者を増やし、関係性が見られなかった質問内容を見直していくと同時に、外傷と患児の性格や運動能力との関係性などについて要因解明を図りたい。